

「登録海上起重基幹技能者」講習

受講願書等の記入について

1. 申請書－1(受講願書)

- (1)※整理番号、※受講番号の欄は、記入不要です。
- (2)受講希望地の欄は、本人が希望するいずれかの会場を記入して下さい。
- (3)専門船団の欄は、講習の手引きの資格対象船団と構成に記載されている 10 船団の内から受講申請者が主に専門として乗船している作業船団名を記入して下さい。
- (4)建設業の種類欄は、10 年以上の海上工事に従事した実務経験を有する土木工事又はしゅんせつ工事のうち、該当する工事業にレ印を記入して下さい。
- (5)会員、非会員の区分が判らない場合は、協会 HP「海技協とは 4. 会員情報」会員名簿をご確認下さい。
- (6)連絡先の欄は、本人に確実に連絡がつく宛先に○印を付けて下さい。講習修了証の送り先になりますので、本人に確実に渡る宛先として下さい
- (7)受講区分の欄は、次の 1)又は2)の該当する□にレ印を記入して下さい。
 - 1)新規に講習及び試験を受講する方は、新規受講の□の欄。
 - 2)講習を受けずに試験を受験される方は、再受験の□の欄。(試験不合格者で試験のみを希望する方が対象)

2. 申請書－2(保有資格等、受講料払込金受領証(写))

- (1)受講申請者が取得済みの資格等について、登録番号等を記入して下さい。
- (2)海上起重作業管理技士又は建設マスター顕彰者の資格者証の写しを添付して下さい。
- (3)職長教育修了証又は職長・安全責任者教育修了証の写しを添付して下さい。
- (4)受講料払込金受領証(写)貼付の欄には、郵便局備付けの「払込取扱票」で受講料の払込みをしたうえで、「振替払込請求書兼受領証」の写しを貼付けて下さい。
なお、「払込取扱票」の通信欄には、登録海上起重基幹技能者講習受講と記すとともに受講申請者氏名を、「振替払込請求書兼受領証」のご依頼人欄には、会社名と受講申請者氏名を記入(1人一枚)して下さい。

3. 申請書－3(海上作業実務経歴書)

- ※ 受講資格の適否を審査する様式です。実務経験年数及び指揮・監督経験年数が不足の場合は受講できません。(海上起重作業管理技士受講時作成の経歴を踏まえ作成して下さい。)
- ※ 再受験者は、海上作業業務経歴書の提出は不要です。
- ※ 指揮・監督経験とは、船団長、船長、副船長、機関長、甲板長の経験です。
- ※ 実務経験年数は、作業船の乗組員として乗船し、海上工事に従事した期間の合計を指します。本年 5 月 31 日までを対象とします。
- ※ 作業船を用いた工事であれば、河川、湖沼、ダム等の淡水域での作業も対象とします。

- (1)作業期間:工事施設名毎に作業開始から作業終了までの期間を記入して下さい。

○年度をまたぐ工事については、各年度に期間を振り分けて記入して下さい。

○同時期に工事を掛け持ちされている場合は、期間がダブらないように工事を振り分けて記入して下さい。

- (2)作業船団:作業時に乗船した専門船団名を記入して下さい。
- (3)作業場所:〇〇港、〇〇漁港等を記入して下さい。
- (4)工事施設名:水域施設(航路、泊地等)、外郭施設(防波堤、離岸堤等)、係留施設(岸壁、物揚場、棧橋等)等を記入して下さい。
- (5)作業内容:打込作業(鋼管杭、鋼矢板)、据付作業(ケーソン、消波ブロック、被覆ブロック、根固ブロック等)、地盤改良作業(深層混合処理、サンドコンパクション等)、浚渫作業(航路、泊地、床堀等)等の作業名と施工数量を記入して下さい。
例)打込作業:鋼管杭φ1,000mm×L40.0m、据付作業:ケーソン 1,500t、消波ブロック 40.0t、浚渫作業:航路-14.0m、土量 200,000 m³、地盤改良作業:深層混合処理(改良深度-30.0m)
- (6)作業上の立場:船団長、船長、副船長、機関長、甲板長、甲板員等乗船時の職名を記入して下さい。
- (7)発注者又は元請会社名:工事受注先の名称(元請の場合は発注者名、下請の場合は元請会社名)を記入して下さい。
- (8)所属会社名:受講申請者が作業時に所属していた会社名を記入して下さい。
- (9)建設工事の種類:各作業期間の作業内容について、該当する工事(土木工事又はしゅんせつ工事)に○印を付けて下さい。

○「土木工事」と「しゅんせつ工事」が混在しないようにして下さい。申請書-1の建設業の種類で選択された建設業のみの実務経歴として下さい。

- (10)経 験 年 数:左の欄上段に、作業上の立場で船団長、船長、副船長、機関長、甲板長として指揮・監督した工事について、○印を記入してください。併せて左の欄下段に、各工事の作業月数を記入して下さい。
右の欄に、作業年数を記入して下さい。

○経験年数は、年度単位(当年4月～翌年3月の間)での集計となります。

○年度の作業月数の合計が6ヶ月を超える場合は、その年度の実務経験を(1年)としてカウントしますので、各年度の最終工事の欄に1年と記入のうえ合計して下さい。

○なお、経歴期間内で1年カウント出来なかった作業月数は、それぞれを合計して下さい。事務局で、12ヶ月で割り戻して年換算します。

例) 15ヶ月(合計月数)÷12ヶ月=1年+3ヶ月

○実務経験年数と指揮・監督経験年数の算定は、ともに上記の算定方法となります。

- (11)実務経験年数: 受講資格要件として、申請書-1で選択した建設業の種類(土木工事業又はしゅんせつ工事業)において、10年以上の海上工事の実務経験が必要です。
- (12)指揮・監督経験年数: 受講資格要件として、申請書-1で選択した建設業の種類(土木工事業又はしゅんせつ工事業)において、3年以上の職長(指揮・監督者)経験が必要です。
- (13)海上作業実務経歴の証明;最終ページに受講申請者(自筆)、代表者の署名、押印をして下さい。

4. 申請書ー4(受講票)

- (1) 受講希望地の欄は、本人が希望するのいずれかの会場を記入して下さい。
- (2) ※受講番号の欄は、記入不要です。
- (3) 写真貼付欄の本人写真は、たて 3.0cm×よこ 2.4cm のサイズ、正面・無帽・無背景で胸から上を6ヶ月以内に撮影したものとします。なお、不鮮明なスナップ写真、サングラスの着用等本人確認しにくいものは無効とします。写真の裏面に受講希望地、氏名を書いて、貼付欄に貼り付けて下さい。

5. 申請書ー5(修了証交付申請書)

- (1) ※印欄(修了年月日、修了書番号、有効期限)は、記入不要です。
- (2) 申請書ー1の建設業の種類で選択された土木工事業又は、しゅんせつ工事業の講習修了証写真貼付欄に本人写真を貼り付けて下さい。
- (3) 写真貼付欄の本人写真は、たて 3.0cm×よこ 2.4cm のサイズ、正面・無帽・無背景で胸から上を6ヶ月以内に撮影したものとします。なお、不鮮明なスナップ写真、サングラスの着用等本人確認しにくいものは無効とします。写真の裏面に受講希望地、氏名を書いて、貼付欄に貼り付けて下さい。

6. 申請書類送付及び受講票送付封筒

- (1) 申請書類送付封筒(角形2号)の表面の端に「登録海上起重基幹技能者申請書在中」と明記して下さい。また、裏面には希望受講地を明記して下さい。
- (2) 後日、同封された受講票送付封筒(長形3号)で、受講番号を振った受講票を郵送しますので、84 円切手を貼り、住所(会社又は自宅)、宛名(会社名、受講申請者名)を明記して下さい。
- (3) 複数名の申請書類をまとめて送付する場合でも、一人一葉の申請書類として(1)の封筒(角形2号)詰めとして下さい。

申請書-1

記入例

令和〇年度

※ 整理番号

※ 受講番号

「登録海上起重基幹技能者」講習 受講願書

私は、「登録海上起重基幹技能者」講習を受講したいので、関係書類を添えて申し込みます。

令和〇年 〇月〇〇日

氏名(自筆) 海上 太郎 印

一般社団法人 日本海上起重技術協会会長 殿

受講希望地	専門船団
東京	起重機船団

建設業の種類 該当する工事業の どちらかに <input checked="" type="checkbox"/> 印	<input checked="" type="checkbox"/> 土木工事業 <input type="checkbox"/> しゅんせつ工事業
---	--

フリガナ	カイジョウ	タロウ
氏名	(氏) 海上	(名) 太郎

生年月日・年齢
(西暦) 19××年 〇〇月 〇〇日生 年齢 〇〇 歳
性別 〇男・女

本籍	神奈川県
現住所	〒 100-0002 東京都大田区1-1-1 TEL 03-591-1111
所属会社名	(株)日本海上起重
会員区分	(○) 会員・() 非会員 どちらかの() 内に○を付けて下さい
会社所在地	〒 103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F TEL 03-5640-2941
連絡先	() 住所宛・(○) 会社宛 どちらかの() 内に○を付けて下さい

※「登録海上起重基幹技能者」講習受講区分(該当する項目に を入れて下さい)

新規受講・ 再受験

保有資格等

資格等	登録番号	取得機関	取得年月日
1 海上起重作業管理技士	00000	(一社)日本海上起重技術協会	H00.00.00
2 建設マスター			
3 職長教育 職長・安全衛生責任者教育	0000000	〇〇県労働基準協会	H00.00.00

受講料払込金受領証 (写)

振替払込請求書兼受領証		口座記号番号 001107		記入者名 一般社団法人 日本海上起重技術協会		金額 55000		ご依頼人 おなまえ (株)日本海上起重 海上太郎		日 附 印	
記帳事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。		料 金		備 考		この受領証は、大切に保管してください。					

海上作業実務経歴書

作業期間	作業船団	作業場所	工事施設名	作業内容	作業上の立場	発注者又は元請会社名	所属会社名	建設工事の種類		経験年数	
								土木工事	しゅんせつ工事	○指揮監督業務 ()作業月数	作業年数
自: H21年 5月 至: H21年 11月	起重機船	○○港	岸壁	ケーソン据付 200t×6函	甲板員	○○(株)	(株)日本海上起重	○		(7ヶ月)	1年
自: H22年 6月 至: H22年 9月	起重機船	○△港	防波堤	ブロック(消波)据付 25t×100個	甲板員	△△(株)	(株)日本海上起重	○		(4ヶ月)	} 1年
自: H23年 2月 至: H23年 3月		△△港	防波堤	ブロック(被覆)据付 5t×100個	甲板員	△□(株)	(株)日本海上起重	○		(2ヶ月)	
自: H23年 5月 至: H23年 10月			護岸	ケーソン据付 500t×5函	甲板長	(株)□△	(株)日本海上起重	○		○ (6ヶ月)	} 1年
自: H24年 1月 至: H24年 3月	起重機船	△△港	護岸	ブロック(消波)据付 25t×50個	甲板長	△△(株)	(株)日本海上起重	○		○ (3ヶ月)	
自: H24年 4月 至: H24年 6月	"	"	"	"	"	"	"	○		○ (3ヶ月)	} 1年
自: H24年 9月 至: H24年 12月	起重機船	○○港	岸壁	ケーソン据付 1000t×4函	甲板長	□□整備局	(株)日本海上起重	○		○ (4ヶ月)	
自: H25年 1月 至: H25年 3月	起重機船	○△港	防波堤	ブロック(消波)据付 25t×80個	甲板長	△△県	(株)日本海上起重	○		○ (3ヶ月)	} 1年
自: H25年 4月 至: H25年 6月	起重機船	△□港	防波堤	ケーソン据付 1200t×8函	副船長	△□(株)	(株)日本海上起重	○		○ (3ヶ月)	
自: H26年 5月 至: H26年 8月	起重機船	□△港	防波堤	ブロック(被覆)据付 3t×200個	副船長	(株)□△	(株)日本海上起重	○		○ (4ヶ月)	} 1年
自: H26年 10月 至: H27年 3月	起重機船	□□港	護岸	鋼矢板打設400m	副船長	○○県	(株)日本海上起重	○		○ (6ヶ月)	
自: H27年 5月 至: H27年 12月	起重機船	□○港	護岸	係留施設設置10基	副船長	○(株)	(株)日本海上起重	○		○ (8ヶ月)	1年

年度をまたぐ工事は、各年度に振り分けて記入

1年カウント出来なかった年度

※年度(当年4月～翌年3月の間)の作業月数の合計が6ヶ月を超える場合は、その年度の実務経験を(1年)としてカウントしますので、各年度の最終工事の欄に1年と記入のうえ合計して下さい。

※経歴期間内で1年カウント出来なかった作業月数は、それぞれを合計して下さい。事務局で、12ヶ月で割り戻して年換算します。

海上作業実務経歴書

作業期間	作業船団	作業場所	工事施設名	作業内容	作業上の立場	発注者又は元請会社名	所属会社名	建設工事の種類		経験年数	
								土木工事	しゅんせつ工事	○指揮監督業務 ()作業月数	作業年数
自: H28年 6月 至: H28年 9月	起重機船	△△港	防波堤	ブロック (被覆) 据付 8t×150個	副船長	(株)〇〇	(株)日本海上起重	○		○ (4ヶ月)	} 1年
自: H28年 11月 至: H29年 3月	起重機船	○港	離岸堤	ブロック (消波) 据付 50t×70個	副船長	□〇(株)	(株)日本海上起重	○	1年カウント出来なかった年度	○ (5ヶ月)	
自: H29年 7月 至: H30年 3月	起重機船	△□港	護岸	ケーソン据付1500t×4函 ブロック (消波) 25t×100	船長	□(株)	(株)日本海上起重	○			○ (9ヶ月)
自: H30年 9月 至: H30年 11月	起重機船	〇〇港	防波堤	ブロック (消波) 据付 25t×150個	船長	(株)△□	(株)日本海上起重	○		○ (3ヶ月)	
自: R 1年 5月 至: R 1年 10月	起重機船	□□港	岸壁	ケーソン据付 2500t×6函	船長	(株)△△	(株)日本海上起重	○		○ (6ヶ月)	} 1年
自: R 1年 12月 至: R 2年 3月	起重機船	□〇港	防波堤	ブロック (消波) 据付 25t×80個	船長	(株)□△	(株)日本海上起重	○		○ (4ヶ月)	
自: R 2年 6月 至: R 2年 12月	起重機船	△□港	岸壁	鋼管杭φ800×70本	船長	□〇(株)	(株)日本海上起重	○		○ (7ヶ月)	} 1年
自: R 3年 1月 至: R 3年 3月	起重機船	□漁港	離岸堤	ブロック (消波) 据付 10t×200個	船長	〇(株)	(株)日本海上起重	○	1年カウント出来なかった年度の月数合計を記入	○ (3ヶ月)	
自: 年 月 至: 年 月											(ヶ月)
実務経験年数: 作業船の乗組員として乗船してから、本年5月31日までの実務経験年数 (10年以上)								計		○ (6ヶ月)	10年
指揮・監督経験年数: 経験年数欄○印の通算年数は3年以上								計		(6ヶ月)	8年

※年度(当年4月~翌年3月の間)の作業月数の合計が6ヶ月を超える場合は、その年度の実務経験を(1年)としてカウントしますので、各年度の最終工事の欄に1年と記入のうえ合計して下さい。

※経歴期間内で1年カウント出来なかった作業月数は、それぞれを合計して下さい。事務局で、12ヶ月で割り戻して年換算します。

海上作業実務経歴に関する経歴の記載にまちがいないことを誓約します。 氏名 (自筆) 海上 太郎 印

以上の記載に相違ないことを証明します。所属会社代表者名 (株)日本海上起重 代表取締役社長

管理 二郎 印

海上作業実務経歴書

作業期間	作業船団	作業場所	工事施設名	作業内容	作業上の立場	発注者又は元請会社名	所属会社名	建設工事の種類		経験年数	
								土木工事	しゅんせつ工事	○指揮監督業務 ()作業月数	作業年数
自: H21年 5月 至: H21年 11月	グラブ船	〇〇港	航路・泊地	浚渫作業 200,000m ³	甲板員	〇〇(株)	(株)日本海上起重		○	(7ヶ月)	1年
自: H22年 6月 至: H22年 9月	グラブ船	〇△港	航路	浚渫作業 220,000m ³	甲板員	△△(株)	(株)日本海上起重		○	(4ヶ月)	} 1年
自: H23年 2月 至: H23年 3月	年度をまたぐ工事は、各年度に振り分けて記入		泊地	浚渫作業 60,000m ³	甲板員	△□(株)	(株)日本海上起重		○	(2ヶ月)	
自: H23年 5月 至: H23年 10月			泊地	浚渫作業 30,000m ³	甲板長	(株)□△	(株)日本海上起重		○	○ (6ヶ月)	} 1年
自: H24年 1月 至: H24年 3月	バックホ船	△△漁港	泊地	浚渫作業 15,000m ³	甲板長	△△(株)	(株)日本海上起重		○	○ (3ヶ月)	
自: H24年 4月 至: H24年 6月	"	"	"	"	"	"	"		○	○ (3ヶ月)	
自: H24年 9月 至: H24年 12月	グラブ船	〇〇港	航路	浚渫作業 180,000m ³	甲板長	□□整備局	(株)日本海上起重	1年カウント出来なかった年度		○ (4ヶ月)	} 1年
自: H25年 1月 至: H25年 3月	バックホ船	〇漁港	泊地	浚渫作業 18,000m ³	甲板長	△△県	(株)日本海上起重			○ (3ヶ月)	
自: H25年 4月 至: H25年 6月	グラブ船	△□港	航路・泊地	浚渫作業 250,000m ³	副船長	△□(株)	(株)日本海上起重		○	○ (3ヶ月)	
自: H26年 5月 至: H26年 8月	グラブ船	□△港	泊地	浚渫作業 35,000m ³	副船長	(株)□△	(株)日本海上起重		○	○ (4ヶ月)	} 1年
自: H26年 10月 至: H27年 3月	グラブ船	□□港	航路・泊地	浚渫作業 220,000m ³	副船長	〇〇県	(株)日本海上起重		○	○ (6ヶ月)	
自: H27年 5月 至: H27年 12月	バックホ船	△△漁港	泊地	浚渫作業 38,000m ³	副船長	〇(株)	(株)日本海上起重		○	○ (8ヶ月)	1年

※年度(当年4月～翌年3月の間)の作業月数の合計が6ヶ月を超える場合は、その年度の実務経験を(1年)としてカウントしますので、各年度の最終工事の欄に1年と記入のうえ合計して下さい。

※経歴期間内で1年カウント出来なかった作業月数は、それぞれを合計して下さい。事務局で、12ヶ月で割り戻して年換算します。

/

海上作業実務経歴書

作業期間	作業船団	作業場所	工事施設名	作業内容	作業上の立場	発注者又は元請会社名	所属会社名	建設工事の種類		経験年数	
								土木工事	しゅんせつ工事	○指揮監督業務 ()作業月数	作業年数
自: H28年 6月 至: H28年 9月	グラブ船	○港	航路・泊地	浚渫作業 120,000m ³	副船長	(株)○○	(株)日本海上起重		○	○ (4ヶ月)	} 1年
自: H28年 11月 至: H29年 3月	グラブ船	△□港	泊地	浚渫作業 238,000m ³	副船長	□○(株)	(株)日本海上起重	1年カウント出来なかった年度	○	○ (5ヶ月)	
自: H29年 7月 至: H30年 3月	グラブ船	○○港	泊地	浚渫作業 200,000m ³	船長	□(株)	(株)日本海上起重			○	○ (9ヶ月)
自: H30年 9月 至: H30年 11月	グラブ船	□□港	航路・泊地	浚渫作業 190,000m ³	船長	(株)△□	(株)日本海上起重		○	○ (3ヶ月)	
自: R 1年 5月 至: R 1年 10月	バックホ船	□漁港	泊地	浚渫作業 28,000m ³	船長	(株)△△	(株)日本海上起重		○	○ (6ヶ月)	} 1年
自: R 1年 12月 至: R 2年 3月	グラブ船	△□港	航路・泊地	浚渫作業 210,000m ³	船長	(株)□△	(株)日本海上起重		○	○ (4ヶ月)	
自: R 2年 6月 至: R 2年 12月	バックホ船	□□漁港	泊地	浚渫作業 25,000m ³	船長	□○(株)	(株)日本海上起重		○	○ (7ヶ月)	} 1年
自: R 3年 1月 至: R 3年 3月	グラブ船	□△港	泊地	浚渫作業 35,000m ³	船長	○(株)	(株)日本海上起重	1年カウント出来なかった年度の月数合計を記入	○	○ (3ヶ月)	
自: 年 月 至: 年 月											(ヶ月)
実務経験年数: 作業船の乗組員として乗船してから、本年5月31日までの実務経験年数(10年以上)								計		○ (6ヶ月)	10年
指揮・監督経験年数: 経験年数欄○印の通算年数は3年以上								計		(6ヶ月)	8年

※年度(当年4月~翌年3月の間)の作業月数の合計が6ヶ月を超える場合は、その年度の実務経験を(1年)としてカウントしますので、各年度の最終工事の欄に1年と記入のうえ合計して下さい。

※経歴期間内で1年カウント出来なかった作業月数は、それぞれを合計して下さい。事務局で、12ヶ月で割り戻して年換算します。

海上作業実務経歴に関する経歴の記載にまちがいないことを誓約します。 氏名(自筆) 海上 太郎 印

以上の記載に相違ないことを証明します。所属会社代表者名 (株)日本海上起重 代表取締役社長

管理 二郎 印

申請書-4

記入例

【注意事項】

1. 受講番号欄は、記入不要
2. 写真は、6ヶ月以内に撮影のもの
3. 写真の裏面に希望受講地と氏名を記入
3. 写真は、サングラス着用等受講者と確認しにくいものは無効

令和〇年度 「登録海上起重基幹技能者」講習

受講票 協会用

受講希望地	※受講番号
東京	

フリガナ	カイジョウ	タロウ
氏名	(氏) 海上	(名) 太郎

勤務地 (連絡先)	会社名	(株)日本海上起重
	TEL	03-5640-2941

写真貼付欄 たて3.0cm よこ2.4cm 全面のリづけ
月 日撮影

令和〇年度 「登録海上起重基幹技能者」講習

受講票 受講者用

受講希望地	※受講番号
東京	

フリガナ	カイジョウ	タロウ
氏名	(氏) 海上	(名) 太郎

勤務地 (連絡先)	会社名	(株)日本海上起重
	TEL	03-5640-2941

写真貼付欄 たて3.0cm よこ2.4cm 全面のリづけ
月 日撮影

講習修了証交付申請書

令和〇年〇月〇〇日

氏名	海上 太郎
生年月日	(和暦) 昭和〇〇年〇〇月〇〇日
現住所	〒100-0002 東京都大田区芝1-1-1 TEL 03-5911-1111
本籍	神奈川県
修了証番号	※第 10××00-00000 号
修了年月日	※ 〇〇〇〇年 12月 10日
有効期限	※ 〇〇〇〇年 12月 9日
所属会社	(株)日本海上起重
会社所在地	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F TEL 03-5640-2941
連絡先	() 住所宛・(○) 会社宛 どちらかの () 内に○を付けて下さい

※印欄記入不要

※令和5年度から講習修了証のデザインが変更になりました。
※選択した建設業の写真貼付欄に本人の写真を貼り付けて下さい。

【しゅんせつ工事業】

【土木工事業】

登録海上起重基幹技能者講習修了証

写真貼付欄
3.0×2.4cm

修了証番号 第 100000-00000 号
氏名 〇〇〇〇
(生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日)
実務経験を有する建設業の種類：しゅんせつ工事業

この者は、建設業法施行規則第18条の3第2項第2号の登録基幹技能者講習を修了した者であることを証します。
この者は、しゅんせつ業について建設業法第26条第1項の主任技術者の要件を満たす者であると認められます。

修了年月日 〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日
有効期限 〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日
一般社団法人 日本海上起重技術協会
(登録番号 第 10 番)

登録海上起重基幹技能者講習修了証

写真貼付欄
3.0×2.4cm

修了証番号 第 100000-00000 号
氏名 〇〇〇〇
(生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日)
実務経験を有する建設業の種類：土木工事業

この者は、建設業法施行規則第18条の3第2項第2号の登録基幹技能者講習を修了した者であることを証します。

修了年月日 〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日
有効期限 〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日
一般社団法人 日本海上起重技術協会
(登録番号 第 10 番)

記入例

申請書送付用封筒表面
(封筒サイズ：角形2号)

	1 0 3 0 0 0 2
登録海上起重基幹技能者申請書在中	一般社団法人 日本海上起重技術協会 行
	東京都中央区日本橋馬喰町一―三―八 ユースビル八階

申請書送付用封筒裏面
(封筒サイズ：角形2号)

受講希望地 東京	連絡先住所
	受講者氏名

受講票送付用封筒
(封筒サイズ：長形3号)

切手を必ず貼って下さい	
84円切手	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
(受講者氏名)	連絡先住所

※封筒サイズ：角形2号 縦332mm×横240mm

※封筒サイズ：長形3号 縦235mm×横120mm

記入例

登録海上起重基幹技能者講習「振込取扱票」

払込取扱票											
00		口座記号				口座番号 (右詰めで記入)				金額	
00		110		7		650669		55000		円	
加入者名		一般社団法人 日本海上起重技術協会									
通信欄		登録海上起重基幹技能者講習 受講									
依頼人		海上太郎									
〒103-0002		東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8									
(株)日本海上起重		海上太郎									
日附印		様									
料金額		円									
備考											

各欄の捺印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)
これより下部には何も記入しないでください。

この受領証は、大切に保管してください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号	00110				7
口座番号	650669				
加入者名	一般社団法人 日本海上起重技術協会				
金額	55000 円				
ご依頼人	おなまえ (株)日本海上起重 海上太郎				
料金額	円				
備考					

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。